

■ 1) 手指衛生の選択

手指衛生の基本は、アルコールベースの速乾性手指消毒剤が基本ですが、目に見える汚れがある場合や、芽胞形成性病原体（クロストリジウム・ディフィシルなど）に曝露した場合は流水と石鹸による手洗いを行いましょう。



★目に見える汚れがある時

流水と石鹸で手洗いを行う

★目に見える汚れが無い時

アルコールベースの速乾性手指消毒剤で手指衛生を行う



■ 2) 手指衛生を行うタイミング

医療現場においては下記の5つのタイミングを意識して手指衛生を行うことが大切です。

手指衛生を行う5つのタイミング

- ①患者に触れる前 例：入室前、触診や検温、血圧測定の前
- ②無菌操作をする前 例：創傷処置、注射、カテーテル挿入前、ケアの前
- ③液体に触れた可能性のある場合 例：検体採取、ドレーン排液の処理、嘔吐物処理、吸引
- ④患者に触れた後 例：検温、血圧測定、触診、移動や介助の後
- ⑤患者周辺の環境に触れた後 例：リネン交換、環境清掃後、モニターに触れた後

■ 3) 手指衛生のポイント

- ・洗いのこしの多い指先、爪の間、指の股、手首は、洗いのこしが無いようによくまなく手指衛生を行う。
- ・爪は短く切り、指輪、時計を外し手首まで手指衛生を行う。
- ・ペーパータオルで優しく水分をふき取り手指は完全に乾燥させる。
- ・手荒れ防止のため、こまめな保湿ケアを行う。



特に洗い残しやすい 洗い残しやすい

<洗いのこしの多い部分>

編集後記

広報室 M

1月の後半に、3連休がとれたので沖縄へ行って参りました。あまり人の行かないような所はないかと探していましたが那覇からバスで2時間の場所がありました！備瀬という場所なのですが70年代のJALバックツアーを彷彿させるほどのエキゾチカでした。その日の気候は1月なのに半袖でも暑いくらいの真夏で、しかもビーチ貸し切り状態。都会の人間にとってはかなりの贅沢でした！



東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ  
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m\_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代

\*東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。 <http://www.tachibana-med.or.jp>

医療法人橋会 東住吉森本病院 地域医療連携センターだより

発行者：夜峰 政和/事務局長：地域医療連携センター・広報室

<http://www.tachibana-med.or.jp/> 〒734-0014 広島県三好市津和野町1-1-1 TEL:082-6006-0010 代表 FAX:082-6006-0055

【院長挨拶】



平成 29 年度の新しいスタートを迎えました。いずれの職場においても新人が配属されて、迎える側の人たちも初々しい彼らを見ながら、自分の駆け出しのころを思い出していることと想像します。同じ職場で働く仲間として、新しい人たちが早く環境に慣れるように、一人一人がちよっとした心遣いを持ちたいものだと感じます。

振り返って、私も東住吉森本病院に入職して一年、院長としてちょうど半年が経ちました。毎日が新しいことの連続で、多くの皆さんのご協力を得て少しずつ慣れてきたところです。昨年 4 月の異動の挨拶でも述べましたように、「落地生根」の諺のごとく、職場の空気に馴染みながら少しずつ地面に根を生やしていきたいと日々考えています。

さて当院診療部においても、外科に葛城・岸田両先生をはじめ四人の先生方が来られました。両先生はそれぞれ肝胆膵および食道外科を得意とされていますが、消化器外科全般の診療の活性化が大いに期待されることです。また消化器内科・整形外科にもそれぞれ新たに四人の先生方を迎えることとなり、陣容がさらに強化・充実されます。また基幹型・協力型の臨床研修医各々三名が一年次研修を開始します。われわれはこれからも、地域の皆さん方からいざという時に頼りにされる病院でありたいと願って一層の努力を重ねてまいります。

寺柿 政和

【災害時医薬品等備蓄事業の締結】

去る 2 月 1 日、東住吉区役所、東住吉区医師会・歯科医師会・薬剤師会及び当院は、災害時用医薬品の循環型備蓄に関する協定を締結いたしました。これは、救護所等で使用する医薬品をスムーズに供給できる流れを整備したもので、有事の際の医療救護体制を強化するものであります。

具体的な運用として、区より支給されたこれら医薬品を当院で備蓄し、院内の診療で通常在庫と併用し使用する。そしてその医薬品が不足すれば通常の流れで補充しながら有事の際は、救護所等へも支給する。この方法は、「循環型備蓄」と呼ばれ、期限切れの未使用医薬品を廃棄することなく備蓄し災害に備える事が出来るというメリットがあります。このような活動を通じ、当院は今後も地域に貢献したいと考えております。



# 平成 29 年度 外来診療担当表及び医師人事異動

外来診療担当表 (5月1日より)

■ 昨年度より変更のあった外来棟

		月	火	水	木	金	土	
午	内科	初診	森口 明宜	*江原 省一	*井口 紀子	寺橋 政和	池邊 孝	轟木 琢哉
		内科一診	高塚 正樹	松山 宗樹	池永 寛子	仲川 浩一郎	巖さこ 恒夫	奥田 博朗
		二診	河野 光泰	上田 美和	巖さこ 恒夫	松本 侑士	岡井 香生里	金道 麻記子
			宮城 邦栄	—	—	宮城 邦栄	—	—
		循環器一診	坂上 祐河	西矢 大輔	夢田 洋平	宮崎 知奈美	*田村 聡一郎	担当医
		二診	—	高木 康浩	寺橋 政和	不整脈外来 前田 恵子	ペーパースペシャル 外来	—
		呼吸器内科	—	伴 裕雅	*茂井 一久	—	伴 裕雅	—
	糖尿病内科	*千田 麻里子	—	—	—	—	—	
		—	—	—	—	—	—	
	外科	一診	西澤 聡	大場 一輝	清田 誠志	廣橋 一裕	倉島 夕紀子	岸田 晋
		二診	—	—	岸田 晋	—	—	—
		呼吸器外科	—	—	花田 正司	—	—	*志田 隆
	整形	初診	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
		再診	—	—	—	大はた 武夫	—	住友 曉
再診		—	柴田 将伍	—	永井 洋輔	—	*スポーツ整形外科	
手外科		寺浦 英俊	—	—	—	池田 幹則	—	
リウマチ		—	—	—	—	—	*担当医	
形成	一診	辻口 幸之助	辻口 幸之助	辻口 幸之助	安形 省吾	辻口 幸之助	安形 省吾	
脳外	一診	*川端 信司	磯野 直史	*加茂 正嗣	*担当医	—	—	
午後 専門外来	呼吸器内科	武田 倫子	整形外科 白川 裕一朗	緩和ケア 大場 一輝	神経内科 *今井 舞園	—	神経内科 *小坂 理	
	—	—	ペーパースペシャル 坂上 祐河	腎臓・泌尿 *羽生 大記	心臓血管外科 *柴田 利彦	—	—	
	緩和ケア 巖さこ 恒夫	骨腫瘍 *山田 賢太郎	外科 葛城 邦浩	肝臓 巖さこ 恒夫	肝胆膵外科 清田 誠志	肝臓(治療) 巖さこ 恒夫	—	
	—	—	—	整形外科 森本 友紀子	—	—	—	

※心臓血管外科は第2・4週のみとなります。

\*非常勤医

## 医師人事異動

内科	入職	轟木 琢哉 消化器内科一般	松本 侑士 消化器内科一般	森口 明宜 消化器内科一般
	退職	大林 倫子	石田 真由子	
外科	入職	葛城 邦浩 消化器外科 肝胆膵外科	岸田 晋 消化器外科 消化器外科 消化器腫瘍学療法	倉島 夕紀子 一般外科
	退職	金沢 源一	木下 正彦	松田 由美
緩和ケア科	入職	大場 一輝 緩和ケア 肝臓腫瘍科		
整形外科	入職	白川 裕一朗 一般整形外科 外科	永井 洋輔 一般整形外科 外科	森本 友紀子 一般整形外科 外科
	退職	増田 翔	藤井 嵩	植田 花
救急・総合診療センター	退職	福本 一夫		

## 【連載】緩和ケア ～緩和ケア病棟のご案内～

緩和ケア病棟 師長 江口 由紀

『緩和ケア』の連載も7回目となりました。本年1月から、緩和ケア科部長として大場一輝医師を迎え、緩和ケア病棟としても再スタートをきりました。そこで今回、改めて緩和ケア病棟の役割についてご紹介をさせていただきます。

当病棟では、症状コントロールに難渋し、専門的な治療と看護を必要としているがん患者様を受け入れています。一般病棟では癌そのものの治癒を目指す治療を行います。緩和ケア病棟は治癒を目指すことを目標とするのではなく、癌の影響で出現してくる様々なつらさをやわらげるための治療や検査、リハビリなどを行い、QOL向上を目指す場所になります。つらさがやわらぎ穏やかに日常生活を過ごせるようになると、患者様とご家族様のご希望を確認しながら、どこでどのように療養していくのかの検討を開始いたします。ご自宅へ帰られる際には在宅緩和ケアに向け、地域医療機関や在宅支援者との調整も積極的に行っております。

専門的な症状コントロールの他に、緩和ケア病棟の特徴のひとつとして、定期的なイベント開催も挙げられます。これは、精神・心理的、社会的、スピリチュアル的なつらさへのアプローチのひとつとして実施しており、春はお花見、夏は緑日、秋は音楽会、冬はクリスマス会など企画しております。



<長瀬公園でのお花見の様子>

2013年10月の開設当初から、【がんによる痛みやからだ、こころのつらさなどを緩和できるように、寄り添いながら対話のある医療を提供する】ことをスローガンに掲げ、専門的なトレーニングを積んだスタッフが最期までその人らしく生き抜いていけるようにサポートしております。

今後も、がん患者様達のつらさを専門的にやわらげる緩和ケア病棟をどうぞご利用下さい。

## 【連載】CLEAN HANDS SAVE LIVES～きれいな手は命を救う～ 感染防止対策室 室長 荻田 千歌

抗菌薬が効かない耐性菌の出現や、新型インフルエンザの蔓延など感染制御を取り巻く環境は大きく変化しています。このような感染を引き起こす病原体の多くは、汚染された医療従事者の手指を介して伝播します。手指衛生は、医療関連感染を防止する上で最も重要な手段と考えられており、2009年世界保健機関（WHO：World Health Organization）は「医療における手指衛生についてのガイドライン」を公開し、あらためて医療従事者の手指衛生の重要性を呼びかけています。

手指衛生は最も安価であり、効果的な感染予防策です。きれいな手で耐性菌や感染症から患者さんと医療従事者を守りましょう!!

(次ページへ続く)